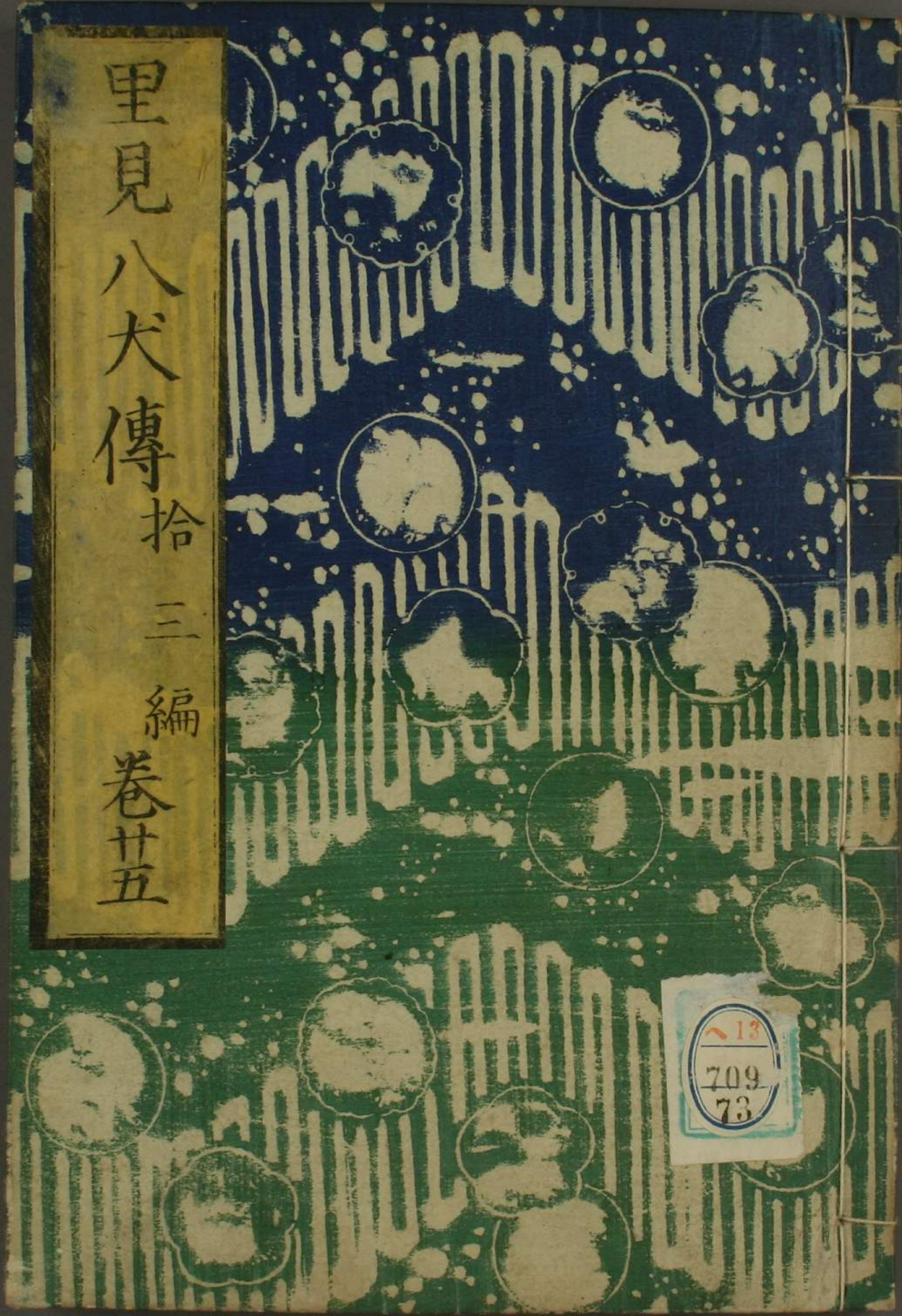


里見八犬傳 拾三編 卷廿五



13  
709  
73



門 遠 13  
號 709  
卷 73



明治三十八年  
十月九日  
購

南總里見八犬傳第九輯卷之二十五

東都 曲亭主人編次

第一百十回 士卒看して自家を防ぐ 餅書教ふ因て秘密を告ぐ

登時亦堅削も徳用が詭譎の遠まると拾ひ足さる補人を膝と找めて復六ふうち向  
いて目今師父の稟され如く結城が非道乱政る曩の師父の庇倚て那家再與の歎  
ひあり一不恩と受て恩と思ひぬ惟成朝のまゝ家長の長を朝重もが心鳥も獸も  
劣ると争何へ甚難追放せられも危邦出るべし乱邦出居るべし是は浮世の  
栄枯廉辱今創ぬとるが是も菩提の種れいぞ深林幽谷に芽を結びひ済して  
二つ塵未落と思ふかいら羊末の師恩と外傳時憂を分て身單の往方と定  
む死あゝね銭多くて路通る逆旅艱苦の伴不達て送届けまの世身暇と賜る下

八犬傳九輯卷之二十五

文庫堂藏

とらひつ胡意歎息して。理のりる虚言も時取て此系の朱と奪ふ可る。よくも思ひ  
ぬ復六も所々忽地愕然る怒面顔れて。開安らぬふそわれ結城里見を謀反の椿  
事ハ只世の風聲耳のこりて正に證據あるわづの許さるるけれも。氏朝李基以下の  
先亡その士卒に至るまで。比皆是嘉吉の逆徒れ。年麻呂も追薦供類。是憚る死  
り多し何ぞ隣國の僧俗と招に集合とそ。堂の施物と羞む反て那家の香華院  
る住持と逐き欲す。京鎌倉のやえと思ふ成朝も傲慢非礼の底意も推して  
知る不足れ。好らる議且措て徳用と田舎法師の傲果さるの惜ろ。罪ろく。那  
里と逐れ。是物怪の幸い。我眼の黒ろ。人程洛中洛外二の名高無る。大判の住持ハ  
做て紫衣僧綱の頭職ハ推登され。田舎院も逆足寺の勝ら。是就ても感思ハ  
堅削御坊の老実る。徳用が法眷のさる結城も。今この時ハ後者ろ。只  
是和僧のミと。孝順賞する。餘りあり。山居の樂ハ然り。俱ハ這里ハ住りて

栄との師と同じ。陰徳あり。陽報る。後の恨る。然れども事情。よくも思ひ  
京人の口ハ絶て。戸も鎖れ。権且俱ハ屏居て。外聞と避る。ある。この義を。あつと町  
寧ハ慰めて。在奥ハ離亭と。徳用と堅削。子舎。今定め。并里居。新衣の相応  
あつを。合出。分ち取。廿日毎の御食饌好。儘く。管待。賓客。似。一家兒  
る奴婢們。徳用師弟の噂を。と。特ハ繫く。敬言。是を知る者。稀。けり。介。ふ。六の  
時。徳用が母。世と去。既ハ年。來。ふ。る。め。父。ハ。兩。個。の。側。室。あり。又。徳用が弟。も。あり。あ  
父。復。六。の。妾。腹。の。三。男。也。香。西。再。六。政。景。と。喚。做。る。君。命。より。宅。眷。と。て。本。貫。阿。波。赴  
は。年。來。京。師。在。在。され。の。義。を。知。り。けり。現。人。の。親。と。其。子。の。死。を。知。り。通。て。世。の  
習。俗。され。復。六。も。只。管。徳。用。が。伴。誑。の。片。言。と。信。容。で。送。恨。遣。る。方。る。隨。ハ。次。の。日。主。の。政  
元。ハ。伴。の。事。ハ。顛。末。と。箇。様。々。と。密。訴。を。け。ける。隨。ハ。告。ぐ。政。元。敬。篤。且。誅。り。介。ハ。我  
徳。用。ハ。對。面。して。さ。不。も。具。ハ。所。く。死。へ。白。書。具。憚。る。矣。ふ。わ。ね。日。暮。春。て。相。伴。ハ。ま。あ。ら。ね。とい。れ。く

復六怡悦る堪む宿所不退りて件の便宜と徳用耳は示し當晩俱して参りて政元  
則徳用と閑室を召入れて先茶を賜ひ菓子と賜ふ。嚮復六が密訴の趣且結城で  
わりの事顛末と云々と問ふ徳用の父不告る。那伴証ある不再按の趣と盡し  
演て結城里見と語りて酷く言果て又も彼們が逆謀の偽りをも證據と爲  
されども天の口も人をゆく言まむと古語の如く相違あるもいふは尚二葉中て断ざらば  
芥子用より患ひの鎌倉の兩管領へ征伐の事を命せられ御後悔も後へ去る其甚  
麼と哄誘共政元一霎時沈吟し和僧の意見も所以を不わねと応仁以来諸國乱  
きて陵夷皇都不速びの干戈を遂く理て都鄙皆安堵の今に至れり。并に只風聲耳  
據るの事結城里見と征伐共東國是より又乱れて民復塗炭不倫共。徳用征伐の  
一條へ他們が旗を建ふ及びて是を伐つとも遅く是姑且度外措く。和僧の上も我  
與乳兄弟の因もあれいそ皇都の大判へ移轉の便宜と計し是時を爲てそよめれ

慰られて徳用のいかにと思へる犯と諫人実事るを陽の寛仁大度と稱を。餘  
談の短夜深ければ是より後も政元の時々情地不徳用と口をせて下總上總の風俗人  
氣の好歹と尋問ふ徳用是より又便りを爲ていそ結城里見の両君と議ると酷く且堅  
削が已お従ふてあの地不速と孝順といふは目と子とをせめて只管着め稟と下  
去の後又政元の堅削を召近着て夜話の陪堂あぞあけける。抑政元が法師をめて陪堂  
まゐるの年末外法と修まれへその故政元の敢女色不親まを然にそわれ放事と妻を  
る子もあつた政務の暇ある折の樂種は做志一も今出川亞相入道義視卿の第の妾  
服の姫上の其名も雪吹と喚れぬの母いと賤かれば忠御子の内典數まられぬのでその母の  
里方不妻もあつて在るや政元恥て養ひとて己が女兒を做しあつた若の女房名按冊  
傳て深窓の下中も鞠艱せらけり。今茲十六歳なるひけり。然に這姫上の容止の美人  
を三月の花不擬ふく又肌膚の清きるの仲秋の月不似し。一とび笑城の傾けとび笑

困を傾ると唐山人の物不寫本も信やと思ふるも惜むべし多病を常の虫積の思  
ありうち臥きと出あらし日も屏居ての在るが政元も與の甲乙と對を擇むは意  
稱ふもあらず且多病る故に症可の折をなすべし有徳一程の雪吹媛の給事する女房  
の頃者徳用堅削が夜々君侯の侍堂召れて加持法驗の灼然たるを問答しけり  
言の趣を知らず知らずち聚合て商量せり。那師の坊とぞえり香西主の家子と相公  
との乳兄弟を因さへありけり。姫上の病着か加持を憑まし驗あえと云女流の衆議  
一決まれば冊傳の老女房伴の衆議の趣を復六告て願京まふ政元素より修法を  
好むる者なればと許しけり。あつて徳用の雪吹媛の持病の發る毎に堅削を領くとの  
寢所近づくて加持と徒夜守るの験あつてもあつたれば呪法の暇あし折堅削が江  
湖の浮談して女房們的笑ひを取る唇の薄けれ雪吹媛を慰められて保養の二助  
あつるのけむ虫積をやく瘥り結髪をの白もあれば女房們的感信し。只是徳用堅

削が法驗するといふは政元も亦然して隨即件の先僧師徒を布施多く取せり。信  
愛あつたけり。介程の秋八月に至りて安房の里見の使者大江親兵衛仁登崎十一郎照文と喚  
做まが貢調の金銀と土宜を幾韓椹換齋して水路を沂り京都詣り。里見義成の  
家の勇臣八個の犬士と姓を請ふるとぞえり。徳用舊怨堪難。肚裏の思ふを  
暴表。我結城を那犬士們不虜せられて能化廢院在り。時他們が衆議内談ふり。その  
姓名を一人と爲りさへ側聞し具不知の我身一旦生拘られる。冤家の大塚信乃がて大江當  
敵するれども那奴の左右川の上を長城枕之介の敷き走りて、大を極ひ。極見れば怨を  
俱あ等し。今我が這里在ると知れ死地入り。妙なるを。黙等風く定り。先堅削が  
意衷を示してその後父不密談あり。有一宵悄地政元件の意趣を告げし。いかに知  
召れども。今番里見が使不達て参上りたる。那大江親兵衛の鏡勇宇宙の侍單る。惡少  
年まで。抑里見の勇臣の犬をめて。及せざる者甲乙都て八名あり。就中那親兵衛の年少



ひとと不さ。伴當も亦勇卒智者ありて。這方の機密を洩す。主君資助て脱去る。當と遠離し。後計し程。門下知多親兵衛が伴當の市店に在る。代四郎等。主の安否を伺ふ。末多と緊密を制し。決て内へ入れり。是れ密意の。結果んと欲し。主君怒り遠慮ありて。事思ふ如く。氣も試撃の計は是切。て。那奴が命を断る。人のせ。我も裏に在。然復た。時を。可京師の鐵匠。鐵の鹿杖の重六十斤。火急を作り。準備堅く。亦復思。旋て京家の武士。武藝勇悍。親兵衛が敵。不足者五六名。易かり。是加。我。萬一も失あり。思ひ。氣味好ら。氣味好ら。氣味好ら。左川。那奴が拵。遠目。不目。か。況能化院の。隻。推倒。動力。裕と云。恰と云。侮。か。大敵。勝負時の氣運。在。倘試撃の折。御内の諸勇士。我。不測の失。主君必親兵衛。

惜と愈放。高禄。家臣。尙。田。鄙語。糧。一期。不覚何の。怨を復。危。試撃。目。夜。紛。那奴。宿所。潜。入。張。寄。一。刀。結果。是。第一。捷徑。後。思。除。風。嗚。呼。也。肚。裏。再。四。の。主。張。決。れ。も。父。復。六。秘。告。堅。削。の。意。衷。示。七。其。次。の。夜。更。圍。時。侯。堅。削。を。伴。す。情。地。親。兵。衛。が。宿。所。赴。各。掩。膊。脛。衣。身。固。戒。刀。腰。跨。鳥。單。巾。回。裏。雙。眼。の。昏。頭。布。の。締。附。る。戰。鞋。を。穿。做。る。准。備。不。亮。の。透。あ。既。多。親。兵。衛。が。宿。所。近。近。の。堀。を。踰。り。庭。へ。潜。入。て。壁。を。穿。ち。隙。隙。を。鑽。り。穿。く。内。へ。入。り。他。が。臥。房。の。那。里。を。ん。と。思。へ。左。を。多。找。難。て。坐。席。の。障。子。不。手。を。て。濡。り。細。小。の。敷。を。穿。て。奥。か。と。圍。觀。る。不。豈。憶。人。や。親。兵。衛。が。臥。房。と。判。り。隔。亮。の。這。方。を。究。究。見。の。士。卒。十五。六。復。是。各。械。と。側。引。着。て。端。然。と。夜。を。成。そ。在。り。あ。義。德。用。堅。削。の。事。知。ら。る。所。の。政。元。の。肇。し。る。倘。親。兵。衛。が。機。密。を。悟。り。脱。れ。去。る。宵。の。あ。ら。も。情。地。不。究。竟。の。精。兵。十五。六。

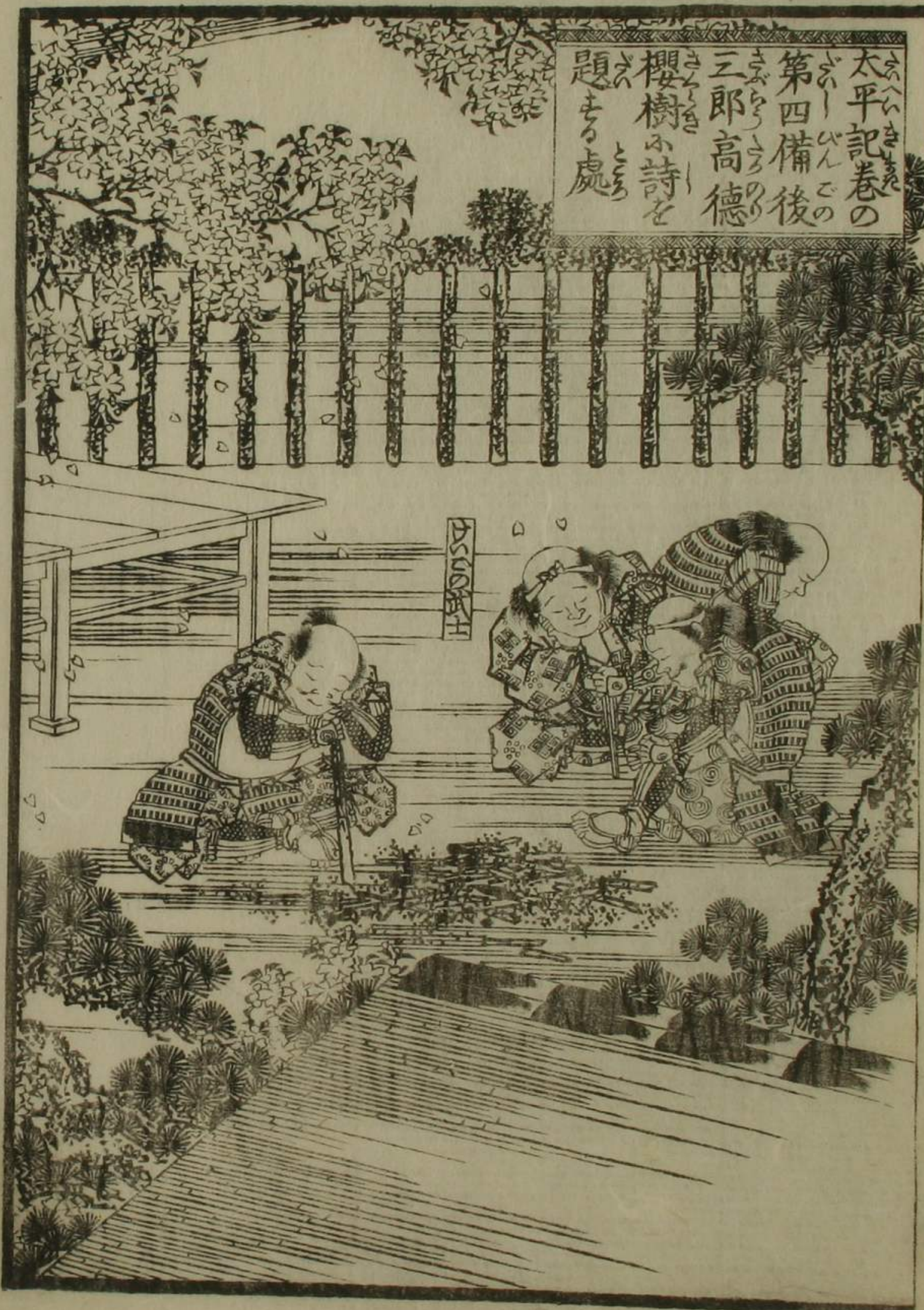
名を夜毎不他が宿所遣く。他が枕不就く及びぐ。臥房の邊を成すと。一宵も間影あらざ。天の明るんとまると比及不情地不出く。親兵衛も是を知り。況徳用堅削も思ひかける。事的光景も是れて頭と檢も不計較。虚もふける。夜の只得退に去り。猶我番も覺て張つ。戌兵の際さ。思ひつ。又虚負く。兩夕を經て。又潛り。不陰成の士卒們。朝親兵衛が宿所の庭の板屏。人の泥脚の跡印。壁さ毀ら。兄也。必是大江が伴當。同兒の術。ゆる者。主と幫助て合を去んと。潛り。あつむ。猶奪れ。我々が後難執る。免る。今宵も人を増て外面とて成るべ。とて大家風く商量。果て。成の地と易。親兵衛不知れんと。憚り物の音も。咳をき。袖小包。情地不宿所。四下も回。時。夜。徳用と堅削。其の邊。近。何れ。躬方の與。信。妨。是。亦。世の常言。公。雙。刀。借。似。鈍。朽。惜。使。く。味。術。又。阿。容。

阿容と。か。去程。徳用。其。今。思。刺客の術。心。所。勇。者。の本。意。不。あ。され。權。且。他。命。を。貸。て。試。殺。の。折。一。棒。を。喫。て。往。生。を。今。宵。不。限。る。と。い。ふ。堅。削。點。頭。て。然。之。師。父。の。勅。力。武。藝。の。通。不。親。兵。衛。の。上。出。さ。り。最。暗。き。時。試。殺。の。折。怨。を。復。し。あ。ん。と。潛。り。寄。て。寢。首。と。捕。り。猶。愉。快。く。い。る。と。慰。め。て。徳。用。介。る。勿。論。々。と。情。め。あ。る。減。ら。ざ。口。旁。り。て。今。宵。功。を。先。に。脚。を。疲。ら。せ。已。が。宿。所。へ。還。り。の。抑。這。幾。條。の。頭。末。の。秘。密。中。の。極。秘。の。あ。る。人。の。知。る。を。と。ら。ぬ。何。れ。と。も。洩。れ。下。司。の。耳。中。入。り。不。い。誠。多。哉。古。語。云。ま。隱。る。も。頭。れ。ぬ。微。も。明。る。一。柳。鴉。を。隱。る。聲。耳。外。不。聽。元。雪。の。路。鳥。鷺。を。度。く。飛。ぶ。時。不。識。ら。獨。情。地。不。做。と。い。ふ。怨。念。已。不。起。る。時。其。機。必。先。動。く。現。隱。匿。の。洩。易。に。怕。る。慎。む。一。回。話。休。題。然。紀。三。六。が。大。部。屋。小。部。屋。の。母。の。噂。が。因。て。知。る。件。の。秘。密。の。言。の。趣。信。ま。不。詳。不。較。ま。不。の。幸。と。い。ふ。其。崖。略。の。心。情。地。不。敬。馬。憂。ひ。て。い。く。で。這。受。を。大。江。主。告。便。り。欲。得。と。念。程。小。親。



兵衛の謀僕們に夜そ人の出入不憚りあれ書り思死者をの頭者未だ餅師が軍書の諸  
 讀妙之と人の噂も知らずしてその餅の價いと廉くて然る一藝を二あるを我も買ふべし買  
 ねと來ぬも招きて餅を賣すの點りも然る太平記を聞くとて大家請く已ら  
 けり登時紀云ち這里と親兵衛が押置る宿所を豫ら知らざるも非如  
 對面の便宜とぬぎとも切て今我來おけを知らせるも便り好と思ふ毫も非如  
 太平記卷の四正慶元年の春笠置山の官軍敗れて後醍醐天皇隱岐國へ遷されを  
 ぬの時備後二郎高德が行在所の櫻の榦詩句と寫去一段と聲來不讀讀  
 ると大家ひとりくらすくその書道道其比正慶元年備後國小兒嶋備後二郎  
 高德と云者あり主上後醍醐笠置御座あり時御方不參を揚義兵一の事未  
 成先不笠置の被落ちと聞えり力と失て黙止らる主上隱岐國被覆を給と聞て  
 無貳一族共を集めて評定をけり志士仁人無求生以害仁有殺身

以爲仁とへり臨幸の路次小參り會君と奪取奉る大軍と起一縦尸を戰場  
 曝まとも名子孫傳へんと申けれ心ある一族共皆此義小同むら路次の難所相  
 待て其隙を伺と備前と播磨との境る舟坂山の巔不隠れ臥今やとを待り  
 ける臨幸餘り不遅らけれ人を走らかり是をえまる小敬言固の武士山陽道と石經播  
 磨の今宿より山陰道へかり遷幸成奉りける間高德が支度相違しけりゆら  
 美作の杉坂を究竟の深山を此待りんと云石山より直達不道も山  
 雲を凌ぎて杉坂へ着りけれ主上へ名院の莊へ給ぬと申ける間密力此より散る  
 るのけるが甘めても此所存と上聞不達せんと思ける間微服潜りて時分伺けれも可  
 然隙も多りけれ君の御坐ある御宿の庭大なる櫻木有けると押削て天莫空勾  
 踐時非無范蠡御敬言固の武士共朝小足を見付て何事と何る者か書  
 たるやんと讀くと則上聞不達しける主上へ躬て詩の心と御覺り有て龍顏殊小



御快く笑せ給け。御記と一字も差を謬。金流る水の委る如く。聲高き誦しければ。  
 大家堪む。やと喝采て。一霎時徒然を慰めける。有徳ければ。親兵衛の静然として。奥に在り。  
 重帘戸隔て。餅師が讀む。太平記をうち听く。その經紀見の紀二六。るる。と。風も聲も精一。  
 他が心と推量る。我今。這里に抑留されて。楚囚に異る。ぬを懸向。最も惶然。昔後醍醐。  
 天皇の隱岐の離宮屏居れて。うきまけ。御悒苦。思ひ比へ。と。知せ。と。高德の樓の寫。一。  
 詩句の一段を讀。るる。の。余。の。那。身。と。高德の孤忠。みづ。と。擬。个。独。を。れ。あ。る。ぬ。歎。と。を。く。の。  
 悄と身と起。と。偷見る。果。と。その。人。う。け。ま。讀。果。一。折。一。個。の。若。當。の。這。宿。所。小。隸。ら。れ。  
 る。と。召。と。きて。却。公。事。今。來。て。在。る。餅。師。歎。思。中。の。似。む。記。憶。の。好。さ。も。我。も。亦。憶。り。る。重。帘。  
 戸。隔。り。うち。听。く。俱。小。徒。然。を。慰。め。ら。れ。然。る。經。紀。見。の。餅。を。ら。と。れ。將。後。の。話。柄。小。喫。へ。試。ま。く。  
 思。ふ。却。味。い。甚。麼。ぞ。と。回。へ。隸。若。黨。微。笑。て。然。し。餅。ハ。則。篩。篩。ぞ。味。ハ。九。庸。を。れ。も。  
 價。極。めて。廉。けれ。ば。鄙。語。の。得。要。東。西。の。上。や。い。は。れ。と。い。く。呵。と。と。ち。笑。へ。親。兵。衛。も。亦。

うち笑て。余の我の好。最上の餅を内。龍。の。形。圓。く。も。長。く。も。あれ。と。大。に。餅。を。五。六。  
 買。ま。く。欲。と。然。と。も。その。館。或。の。微。く。或。の。又。九。庸。を。深。く。心。と。用。ひ。され。我。口。小。稱。ひ。と。の。  
 美。と。あ。る。る。と。と。做。さ。る。と。明日。の。と。来。よ。と。詠。て。よ。と。要。る。一。五。枚。で。よ。と。余。隸。若。  
 黨。の。ろ。ろ。で。退。出。て。躬。て。紀。天。の。親。兵。衛。が。詠。と。箇。様。々。と。吟。吟。と。奥。に。在。る。安。房。人。を。  
 安。房。の。里。見。の。正。使。を。大。江。と。喚。做。さ。後。生。你。が。記。憶。妙。な。れ。東。還。て。話。柄。妙。な。と。て。買。ま。  
 餅。を。明日。の。必。り。と。来。よ。と。と。論。を。待。ぎ。紀。二。六。に。既。に。親。兵。衛。が。隸。若。黨。の。吟。吟。と。折。聲。聞。れ。て。  
 と。き。あ。る。と。の。ろ。ろ。と。只。阿。唯。々。と。と。心。の。賣。場。の。販。棧。を。搭。駝。て。還。る。通。途。左。右。  
 さ。る。思。惟。る。今。日。大。江。を。詠。め。餅。の。必。所。以。あ。る。と。心。つ。て。も。その。所。以。を。早。小。悟。る。小。才。  
 足。ら。ぬ。那。陸。上。涙。碑。の。わ。ら。ぬ。も。考。へ。幾。町。致。も。も。覚。ぎ。五。條。を。客。店。近。く。う。り。時。や。う。  
 登。り。思。ひ。の。て。れ。心。情。地。の。致。勇。を。そ。の。儘。例。の。向。丸。走。り。免。て。條。々。と。件。の。餅。を。詠。て。翌。日。變。り。  
 歇。店。を。還。り。湯。浴。り。飯。を。喫。果。を。り。同。歌。る。客。經。紀。の。妙。枕。小。就。丸。軍。紀。二。六。

孤燈の下。愚平の筆を抜きて。最細小る紙。徳用堅削る。密細説言の事の趣。且改  
 元。將軍家の台命と伴。親兵衛を返さす。奸詐邪謀の顛末。と近日京家の勇  
 士。と試敷も。下。の風聲耳も。漏きと。細書者。五枚可。開。猶小く。愚平。分。い。  
 準備既。整。り。火。燈。火。弗。と。吹。滅。し。て。軀。て。枕。就。し。て。明日。の。便宜。思。ふ。故。の。通。宵  
 寐。も。睡。ら。れ。ど。次。の。朝。の。毎。日。の。風。例。の。販。子。賣。買。者。館。餅。の。向。允。許。赴。て。昨。誂。へ。る  
 巨。餅。と。毎。不。鬻。南。館。餅。を。買。合。の。販。權。不。藏。て。い。そ。く。這。里。と。立。去。て。人。多。地。方。赴  
 び。自。利。の。為。不。財。を。利。刀。と。り。巨。餅。を。都。て。兩。箇。不。裁。割。て。内。の。館。と。令。賣。棄。て。准。備。の  
 細。書。と。一。箇。々。々。不。能。龍。て。研。口。と。合。ま。る。携。持。へ。程。も。尙。煖。る。餅。を。研。口。愈。て。迹。見  
 え。も。噫。我。ら。が。よ。く。あ。る。と。思。へ。獨。ら。ら。し。夫。れ。て。又。販。權。不。藏。め。復。搭。駝。て。改。元。の。邸。多。親。兵  
 衛。が。宿。所。不。赴。く。程。不。秋。の。日。を。短。く。て。已。牌。を。そ。り。あ。け。登。時。紀。二。六。も。背。門。より。高。く  
 呼。内。も。諫。僕。們。不。報。を。す。昨日。東。の。御。客。様。の。仰。付。を。せ。む。い。る。餅。を。持。參。は。る。ぬ。も

豫。より。知。食。は。近。曾。の。新。制。衣。を。米。饅。頭。と。喚。做。ら。ず。殊。大。に。仕。り。ぬ。館。へ。仰。不。従。ひ。と  
 實。心。と。用。ひ。た。れ。薄。皮。の。其。味。妙。い。と。餘。人。不。取。り。ぬ。ぬ。と。峻。し。ぬ。い。る。骨  
 折。甲。斐。も。い。つ。の。稟。し。ぬ。い。つ。の。不。諫。若。當。る。る。て。卒。然。と。其。餅。を。是。へ。く。と  
 菓子。碟。と。す。と。拭。ふ。濡。布。巾。埃。目。残。る。漆。盆。に。載。て。遞。与。せ。紀。三。六。某。箸。と。り。米。饅  
 頭。と。碟。子。不。裝。る。者。才。五。枚。を。の。備。九。庸。る。館。餅。を。裝。添。て。是。を。諫。若。當。不。示。と  
 ぬ。と。這。館。餅。の。産。物。也。御。用。の。外。不。い。と。も。喫。比。ぬ。い。る。米。饅。頭。の。意。味。深。く。安  
 定。不。知。ぬ。い。る。も。進。ら。せ。ぬ。い。つ。の。不。諫。若。當。點。頭。の。件。の。漆。盆。合。抗。と。不。信。與  
 へ。ぬ。も。程。不。親。兵。衛。の。危。瀕。の。次。の。向。る。縁。頼。不。站。と。庭。と。長。視。て。在。り。今。紀。二。六。が  
 の。不。の。風。具。不。洩。せ。ぬ。既。ぬ。あ。ら。ぬ。い。つ。の。不。諫。若。當。生。ら。ぬ。と。不。信。與。の。を。ぬ。と  
 へ。ぬ。も。餅。師。が。口。状。の。這。里。も。詳。不。少。ぬ。い。つ。の。不。諫。若。當。居。る。坐。席。不。返。り。座  
 也。先。餅。を。見。て。含。み。笑。て。現。大。に。も。為。れ。る。る。登。下。侍。衆。諫。若。當。我。思。不。し。ぬ。い。つ。の。不。諫。若。當。

那經紀見がりて来た。餅を餘さず買合せて各本あつて其の計ひぬねとらふ。若黨欽び美て退れ出く甲乙小告て餅を買合する程。親兵衛情地お指とて未饅頭と推試る果一と内にお堅ければ東西有りけりと猜し。肚裏お思やう昨日紀二六が来て太平記を諸讀まけ。備後三郎高德が様お寫志一詩の一段も。必是情地。我の告まき欲まきとあると。知せんとの所為あると猜しければ我の亦昔唐山で大なる鯉魚を解く。その腹より一書と獲たり。故事と思ひ出つそれとる。小餅の内お密書と籠る。計策と誨え。他よく悟りて我あうとゆる。恰判しおけり。と感して心お奉る程。若黨が遠く。又来て親兵衛お報る。方僅仰られ。館餅を比買合せて其價と向ひひの米饅頭の價と共五百文お金として貳分と。いひたあるおヨクいひ。まとの親兵衛おま否とよ我憶も。這里お止宿を移されて各の厄會お做ると。既久しければ徒然と慰む。為もかと思ふならお進らる東西もおまた決て敷

あつて宜く分ちて茶消す。我も午後のおせ。この件のお米饅頭小餅見をうけて後。方る袋戸用て藏措く。却客硯の下布る。小紙裏と念出。封お儘推試て好。行裏を用るま。這金お貳分おれ。隨即餅の價不足れり。この筆と搔合て餅の價金貳分と寫着て若黨お卒と遊興して又おゆう。何とらん。教言お似。ども各軍記を听んと。日毎お錢を費して餅を買入。要るお知る。如く將軍家お命およる。抑置る。我宿所お遊戯お度お樂お憚りある。お各の上も我の謹慎の所。以るれ。然れども餅をる買ひ。那經紀見を近づく。と買達ておあ。折々我も又餅の欲。此日もある。西三三隔て来よ。と吩咐ぬね。憑ひく。と小隸若黨感服して。御教諭。美らひ。現堂。胸狭くて然も。馬敬言ぬ。其頭。小心仕る。と心て。馳退。却紀三六。件の。餅の價と還せ。紀二六。受合。ち戴。販櫃。緊と藏。答る。御諭。の言の趣。ある。ゆ。て

然然ふ今より隔日又そ参りひあひ。御用とくと諄返り。販櫃と背かど。駈  
 做。御座因て。御一所。賣買を。做果。れ。退り。休足仕らむ。吁。忝。の。う。と。  
 宜く。稟。の。心。と。腰。を。屈。め。人。々。告。別。し。去。り。て。大。家。ひ。と。く。た。り。て。そ。の。賣。買。の  
 脱。落。を。て。老。實。を。と。答。言。け。り。介。程。不。紀。三。六。の。日。歇。店。か。り。來。て。親。兵。衛。が。取。せ。る。  
 金子の裏と開て。んと。思。心。の。い。そ。れ。て。販。櫃。の。蓋。搔。合。て。見。れ。餅。の。湯。氣。籠。り。内。屋  
 である。櫃。を。裏。し。金子。の。紙。濡。れ。る。丹。を。破。ら。と。壁。近。る。火。盤。の。埋。火。搔。起。し。裏  
 紙。を。そ。儘。火。を。毀。す。う。ち。返。し。火。を。さ。す。く。乾。か。る。裏。紙。を。解。け。用。け。る。金。貳。分  
 より。多く。を。方。角。兩。個。の。里。の。包。と。一。兩。あり。加。之。の。紙。に。寫。す。數。行。の。文。字。あり。て  
 炭。画。の。像。く。頭。れ。り。何。あ。る。と。誦。り。を。か。押。伸。ま。て。よ。く。直。塚。不。示。を。事。汝。が。諳  
 讀。の。太。平。記。高。德。が。詩。句。の。支。我。不。告。も。思。ふ。よ。う。あ。る。所。以。る。と。猜。考。す。我。亦。輕。書。の  
 故。事。不。擬。へ。餅。書。の。秘。策。を。教。え。と。悟。ら。必。做。ま。の。あ。る。今。う。と。屢。世。バ。竟。ち。馬

脚を露して人不知る。禍あり。小事。我。不。告。も。あ。れ。大。事。の。餅。書。の。密。策。も。猶。又。一  
 度。の。允。せ。し。且。燒。雪。不。告。も。ま。と。も。他。が。歇。店。へ。く。ま。い。汝。が。主。不。從。へ。の。地。不。在。と  
 野。兵。伴。賞。が。疑。ひ。向。つ。悠。々。と。告。げ。る。と。い。は。る。夫。計。の。密。を。と。善。と。ま。躬。方。と。い。ふ  
 と。も。少。知。る。人。の。言。ふ。所。と。い。は。れ。洩。易。く。慎。之。々。々。古。歌。の。云。も。あ。る。を。阿。漕。の。鳴。の  
 しく。鯛。の。さ。び。あ。る。人。も。知。り。ま。し。と。あ。り。と。紀。三。六。屢。讀。復。し。且。歎。ひ。且。感。る。心。の  
 敬。服。大。き。く。先。の。金子。を。合。藏。め。又。その。書。を。推。困。め。火。般。票。投。煙。不。做。と。い。ふ  
 又。此。の。思。ふ。所。大。江。ま。の。神。々。を。今。今。創。ぬ。る。と。昨。の。餅。書。の。計。策。を。これ。と。い。ふ。我。不  
 誨。え。く。秘。密。を。生。る。便。宜。を。い。は。す。今。今。亦。酒。を。り。意。見。を。寫。し。敬。言。ら。現。素  
 紙。酒。の。り。と。画。ま。れ。文。字。を。寫。し。尚。素。紙。を。た。え。か。さ。り。丹。を。火。不。毀。す。火。を。不  
 逮。び。く。寫。る。限。り。頭。を。あ。ら。世。の。人。の。知。る。所。也。新。奇。と。ま。る。不。足。な。ね。ど。時。取。て。遠  
 慮。精。妙。生。年。九。歳。の。童。不。と。よ。く。の。田。地。不。至。ら。ぬ。実。不。次。負。る。神。在。さ。ま。誰。の。企。及

然今こそ信の心もはげ。我の這酒書をよりと。鬼毛なるも悟らむ。知らむ。只這紙の濡たるを。及びて。憶むも文字頭れ。自然の感応。是も亦護らむ。神の冥助。人智の及ぶ。奇の妙。是も亦就も。大江王の餅書と酒書と。互ある。餅酒の照對。新奇。人意の表。亦少。つゝ。矧亦餅の價。まじ。つゝ。知る。時先金壹兩。裏措て。冥冥。貳分と。貳分と。寫。壹兩金。儘。速。與。臨。機。心。變。智。慧。廣天世。八。大。士。と。稱。れ。八。和。漢。小。技。草。の。以。あ。る。と。一。唱。三。歎。の。憑。く。思。ひ。けり。

第百廿九回 五條の頭小代四郎宿憂と啓く

去の日記。六分。賣買。果て。五條の歌店へ。還り。い。毎。より。更。と。早。くて。尚。未。牌。時。候。り。け。き。同。歌。店。る。客。經。紀。們。中。生。活。小。出。て。四。下。小。入。り。紀。六。も。是。も。亦。折。ら。の。便。宜。と。な。れ。架。る。木。枕。合。下。も。臥。り。思。旋。ら。ま。大。江。未。仇。做。ま。兎。僧。那。德。用。們。が。説。詐。奸。計。の。

顛末と既小主は告され。と。さ。く。小。心。せ。ら。ま。然。る。中。も。姥。雪。王。の。有。悠。る。椿。事。と。知。る。より。ま。け。れ。那。上。の。あ。い。あ。く。と。思。難。々。存。ん。ま。む。然。る。と。那。人。達。の。歌。店。へ。と。い。ふ。が。て。三。條。五。條。の。程。遠。く。同。河。原。在。る。が。我。這。歌。店。と。知。る。ま。死。便。り。る。と。薄。情。けれ。と。思。ふ。の。と。を。術。ま。け。れ。次。の。日。亦。夙。改。元。の。郎。小。赴。て。大。部。屋。小。部。屋。の。毎。餅。を。賣。れ。も。軍。書。と。講。せ。強。て。求。る。者。あ。り。も。事。小。假。托。け。免。れ。て。只。江。湖。上。の。雜。譚。小。聊。笑。ひ。を。取。れ。る。の。と。親。兵。衛。の。宿。所。へ。二。日。小。一。と。赴。て。隸。僕。們。の。餅。と。薦。め。て。賣。る。日。も。買。れ。ぬ。目。も。あ。り。け。り。紀。二。六。が。悠。猛。小。賣。買。の。趣。を。易。し。事。情。の。衛。親。兵。衛。が。敬。言。と。思。ふ。小。代。四。郎。の。听。果。ら。告。げ。の。告。げ。る。小。故。の。儘。多。慎。ま。ま。餅。師。小。相。応。し。か。ら。軍。書。の。諳。讀。ま。ぬ。と。の。噂。の。高。く。人。を。智。あ。る。者。の。疑。ふ。後。の。障。り。あ。る。り。や。せ。ん。と。思。ふ。遠。慮。あ。れ。ば。是。より。又。三。四。日。經。り。紀。二。六。の。例。の。如。く。餅。を。賣。竣。し。て。か。ら。ま。五。條。の。橋。の。頭。で。料。も。代。四。郎。が。前。面。より。來。ぬ。小。逢。ひ。け。り。迷。ふ。あ。る。何。麻。と。を。り。ふ。

先四下と見通す。這時下晡。路傍人の稀。は。河原。老。柳。あ。れ。俱。其。樹。陰。立。寄。り。て。土。坐。を。着。る。を。祝。表。祝。さ。る。代。四。郎。の。恨。は。面。色。で。直。塚。和。郎。の。思。ふ。も。似。も。心。つ。ま。る。人。か。曩。咱。們。の。大。江。主。の。安。否。を。向。き。思。ひ。つ。那。郎。へ。赴。死。の。門。子。們。が。推。禁。め。て。木。牌。を。借。り。け。れ。ば。と。許。さ。び。和。郎。と。志。合。ひ。て。那。木。牌。を。借。ん。と。尋。思。さ。さ。ど。も。歌。店。を。那。里。と。知。れ。ば。思。ひ。の。そ。で。开。も。果。さ。ま。今日。の。音。耗。せ。る。は。秋。明。日。を。來。て。那。里。の。動。靜。を。報。ら。せ。秋。も。九。月。中。旬。ま。で。早。暮。考。し。樹。影。悵。を。然。そ。と。查。し。玉。を。餘。胸。の。休。々。ね。和。郎。の。歌。店。と。那。里。と。今。知。る。よ。い。あ。ま。と。も。洛。中。洛。外。二。三。里。の。遠。く。あ。ら。う。卒。然。と。索。ね。て。又。又。尋。思。ま。て。漫。約。を。志。す。今。を。三。日。あ。る。の。り。毫。も。便。り。な。ら。ず。一。夕。又。徒。に。三。條。の。歌。店。を。投。て。か。ら。ゆ。こ。這。里。で。逢。ひ。の。幸。ひ。多。し。和。郎。の。歌。店。の。那。里。を。和。子。の。安。危。を。知。れ。ば。秋。の。ふ。そ。や。と。急。迫。く。向。て。已。ざ。り。と。紀。三。六。禁。め。て。且。等。の。め。と。ひ。つ。四。下。と。見。つ。て。聲。を。低。め。て。然。と。よ。思。ひ。の。

恨。の。理。り。を。思。は。る。あ。ら。う。な。も。今日。ま。で。音。耗。せ。る。の。秘。密。の。事。由。あ。れ。と。却。小。可。も。曩。小。大。江。主。の。教。を。受。し。その。背。より。この。川。の。前。面。を。甘。甲。と。公。飯。店。の。在。り。餅。師。の。打。拵。を。那。木。牌。を。も。て。那。郎。へ。入。自。由。を。ゆ。り。一。夕。賣。買。の。餘。與。と。唱。々。太平。記。を。讀。み。お。り。大。部。屋。小。部。屋。の。毎。隔。る。ま。あ。ら。う。一。夕。那。里。の。秘。密。を。撈。り。必。ず。大。江。主。の。告。げ。を。自。身。の。口。筒。様。々。尾。の。又。倦。々。と。と。徳。用。堅。削。が。事。詭。詐。の。事。政。元。の。心。術。奸。計。試。敷。の。あ。る。べ。し。の。風。聲。且。親。兵。衛。が。誨。る。餅。書。の。秘。策。酒。書。の。事。の。要。緊。の。顛。末。眞。実。を。又。小。可。も。小。可。の。秘。密。を。雙。お。告。ま。く。思。ひ。つ。ど。も。救。ふ。宿。所。を。造。り。野。兵。伴。當。小。怪。れ。ん。躬。方。と。い。ふ。も。要。る。は。毎。知。ま。る。と。漏。易。り。姑。且。自。然。に。任。せ。よ。と。大。江。主。の。酒。書。の。誨。の。理。り。を。黙。止。り。聲。を。深。く。恨。ま。ひ。を。小。可。既。小。大。江。主。の。宿。所。の。立。入。る。と。な。ら。う。と。隸。僕。們。の。疎。く。ね。ど。王。の。對。面。を。許。さ。れ。ば。非。如。今。の。那。木。牌。を。雙。お。貸。ま。わ。ら。せ。る。と。の。事。益。る。の。も。な。ら。ず。反。て。門。子。們。が。訝。り。て。木。牌。の。出。処。を。問。ひ。及。ば。亦。禍。の。端。と。做。り。て。



小可さへ那郎へ出入便宜を失ふべしと思つて後悔あらんと論を代四郎つらんと听  
 憶む太息と吻く。原来這回禍鬼の那徳用も所為なり。然幸ひありて大江王へ今  
 猶恙ありといへども。他們が毒計已に成るべし。嗚呼危れか。始々後へ。乍麼いふて可  
 り。と問へ。紀三六沈吟。さて事情を思惟る。徳用が詭詐毒計。施さざるといふも。幸  
 ひよく改元主の試敷を宗として。その餘の徳用が薦る邪計を多く取らざると噂ふ。皆  
 け。那人の底意大江王の人柄と。その武勇を知らず。情地を愛する故。人介らん。大  
 大害を加ふといふ。人介らん。及て安んじ似たり。解けて代四郎點頭。それを思ひ合  
 る。あり。始我船浪速津の着れ。折大江王の指揮より。咱們先這地を去る。世の風  
 聲を榜听し。小京師を殊。田力色の初る。と女色も勝る。且政元主の風より。情地  
 外法を行ふ故。正室側室ある。と豫言け。弘法以降。龍陽調戲の法師を許  
 せといへ。木犀花をの。改元主も忌まざる。人介らん。我もも。大江腋子と抑措て。頑童不

せむく欲する故。弥勒の世までも放り。安房へ返る。目ある。と疾一癖の境。也。并も  
 亦後の障あり。といへ。紀三六合笑て。かの意の料りか。けれども大江主の神々。臨機  
 応変の才。医一か。縦其頭の情欲あり。とも免る。と目より。それらも猶危く。余  
 試敷の沙汰あれども。大江主の本事より。失あはる。もいふ。と。大の我も心安。へ。寔は  
 今日料らる。遭際。の長談。話。憶も。日の暮。れ。宿所へ。伴ひ。ま。あ。せ。く。餘  
 談を。聲。さ。思。い。も。我。歌。店。の。客。經。紀。の。合。歌。る。と。側。小。憚。り。いと。ヨ。ヌ。ろ  
 尚。又。異。日。小。可。逢。ま。く。欲。い。ひ。る。朝。ま。れ。ま。れ。這。橋。盡。処。の。鳴。立。く。我。賣。買。不。お  
 毎。の。去。向。歸。路。を。等。多。對。面。輒。々。係。れ。と。論。其。代。四。郎。點。頭。て。好。々。と。の。我。も。あ。る  
 乃。と。嘻。和。郎。の。陪。臣。の。若。黨。多。惜。れ。才。子。へ。開。て。大江。王。の。見。出。し。て。今。番。の。大。事。の。使  
 とも。那。眼。力。も。亦。ゆ。く。和。郎。尚。太。の。地。も。來。て。在。る。と。我。豈。那。里。の。風。聲。耳。秘。密。を。急  
 ま。も。具。小。听。く。と。乃。や。寔。小。珍。重。々。々。と。譽。れ。紀。三。六。頭。を。搔。く。悠。々。今。は。不。面。正。く

もあ言る。小可が親の常陸の鹿嶋の御士よりける家酷く衰へ。二親を老く世に去り胞弟兄も多。憑りた親族もいなき。獨今の東人蛸崎照文は我外戚の小父。小可年十二の時。迫那里身を寄る。厄會の作りより。多日武藝も人並。その師に就く。教られ近屬猛可引立て。若黨に用ひ使つ。那洪恩の答ふべき。より。この一回の大役。東人代れとある。教諭の辭ふこと。左中右を侍り。その秘言のいへ人。噂を去りひそそ。創り諱き那身の素生。代四郎只顧感嘆。然るに。摩摩より。出処卑し。人の子。あつと。思ひか。も。蛸崎主の猶子。らむ。知るを致し。許し。卒然。復た。這里。逢ふ。れ。と。ひ。躬を身。起。紀。二。六。も。共。侶。異。日。と。契。望。月。の。鑑。へ。の。信。と。信。曇。ら。ぬ。心。潜。る。宵。那。壺。盧。の。宿。る。五。條。頭。の。杪。枯。寒。け。た。袂。を。分。ち。遂。左。右。別。れ。け。り。案。下。不。題。大。江。親。兵。衛。那。日。紀。二。六。の。教。諭。の。餅。書。の。計。策。成。り。傍。人。の。折。餅。を。披。りて。

内より細書と一箇々合出。懐なく。皮のさ。米饅頭を喫べ。その餘。庭を。狗兒は投與へ。餡餅をの。奴隷を取らせ。當晩。更。蘭。人。定。り。後。單。枕。上。る。行。燈の光り。件の細書と披りて。徳用が。詭。詐。政。元。の。伴。誑。の。事。情。を。ひ。り。そ。その書と。焼。盡。し。枕。就。り。思。ひ。管。領。陽。台。命。と。唱。り。咱。們。を。抑。め。別。不。故。あ。と。思。ひ。の。思。ひ。結。城。の。惡。僧。徳。用。の。香。西。復。六。が。愛。子。を。改。元。主。と。乳。兄。弟。の。因。あ。る。者。を。え。非。如。那。奴。が。毒。計。を。薦。り。我。を。揣。も。邪。は。是。正。小。勝。り。る。けれ。試。敷。の。勝。負。を。我。還。る。路。に。用。け。ん。又。只。自。然。に。任。せ。ん。と。思。慮。正。倒。の。夜。を。女。に。睡。り。け。り。倦。而。又。一。句。許。を。經。り。秋。の。鏡。の。多。一。時。候。香。西。復。六。が。奉。書。を。り。親。兵。衛。の。代。示。を。見。あり。その書。の。略。の。寡。君。を。改。政。の。暇。と。い。ふ。明。日。對。面。せ。と。仰。り。見。參。己。牌。を。下。と。あ。り。けれ。親。兵。衛。隨。即。美。書。を。寫。し。使。の。遞。與。し。て。躬。に。准。備。を。敷。る。必。是。明。日。の。見。參。の。試。敷。の。事。を。下。と。思。へ。

とも謀ぐ氣色よく。詰朝公服と着け。両刀と腰中。徐々宿所を歩程。那當管する  
 あり。毎丸。先小立て案内を致し。兩個の隸若黨。左右に従ふ。且奴隸の鞋奴あり。柳  
 管持るあり。都て後方不跟て。既小して親兵衛の副玄関より。登れ。青侍案内  
 内小立て。正聽小造ら。あ。香西復六れを。迎へ。易旨を。傳達。當下。青侍。左右  
 より。徐々と。立蒐りて。間。隔亮を。廣く。開く。と。元ハ長袴。小刀。正聽の  
 上座。在り。有司。左右。四維。列れる。并。中。又。五個の。武士。あり。或ハ眼圓。鼻再の。迹。蒼々  
 或ハ身材。高く。骨。逞。或ハ飾磨。紺。或ハ褐。色の。社。禊の。肩。狭く。下。短。糸。綿。織。の小  
 袖の。緯。足。を。肘。の。見。可。多。と。一。様。被。て。二。尺。五。六。寸。も。あ。ら。ん。と。又。腋。挿。の。刀。と。各。腰  
 跨。て。肩。と。尖。り。臂。と。張。り。存。々。と。有。司。の。上。坐。在。り。又。政。元。後。方。不。侍。る。一。個。の  
 法師。あり。年。歳。ハ。三。十。八。九。多。下。身。材。高。く。肥。膏。盈。て。面。皮。淺。黒。く。眼。ハ。蛇。小。似。く  
 鼻。ハ。俊。猊。の。像。く。鼠。色。の。光。絹。の。小。袖。二。領。可。襲。被。て。鳥。紋。紗。の。法。衣。の。面。袖。を

卷抗て身柱の上。く。締。純。ね。袈。紗。袋。と。胡。意。楸。ぎ。と。思。置。と。扇。子。あ。ら。ち。乗。く。右。の  
 備。小。措。ら。け。是。則。別。人。を。刑。餘。の。兎。僧。徳。用。之。親。兵。衛。と。查。見。る。眼。光。凄。く  
 勢。ハ。籠。で。和。え。り。登。時。香。西。復。六。を。親。兵。衛。と。領。て。找。入。り。政。元。小。向。以。額。と。衝。く。犬  
 江。親。兵。衛。召。不。因。り。參。上。と。せ。上。れ。ば。政。元。則。親。兵。衛。を。間。近。く。找。し。詞。徐。不。示。ま。さ。り  
 犬。江。仁。美。れ。豫。より。傳。達。さ。る。汝。の。武。藝。御。臨。見。の。事。上。の。御。言。教。不。御。坐。せ。ば。い。ま。ご。の  
 日。と。ト。め。か。ら。り。政。元。先。試。檢。考。す。と。雌。雄。を。宣。上。と。昨日。仰。出。され。り。是。ハ。あり。今日  
 去。も。我。郎。中。也。咱。們。實。檢。考。せ。死。者。を。り。武。藝。の。次。第。を。第一。小。白。打。第二。鼓。劍。第三。小  
 鎗。第四。小。弓。第五。小。火。銃。第六。小。棒。と。敵。ハ。則。五。六。名。小。過。ぎ。ま。は。り。是。當。家。ハ  
 勇。士。或。ハ。又。將。軍。家。武。林。虎。賁。の。英。臣。と。北。面。の。武。士。も。是。ハ。復。六。其。々。其。兵。と。母。と。汲  
 會。せ。よ。と。課。され。ば。件。の。武。士。等。あ。ら。ぬ。俱。小。膝。と。を。找。め。け。る。當。下。香。西。復。六。を。親。兵  
 衛。小。う。ち。向。ひ。く。犬。江。生。是。る。ハ。白。打。緝。捕。の。名。家。と。せ。え。二。階。松。山。城。介。允。可。の。第

子。則ち地の浮浪人當家の壯伎們が師と馮む。月俸數口賜へる。敵齋經緯  
是次ハ敵の師範とて。亦當家小客持る。鞍馬海傳真賢是又その次の鎗  
法の達人將軍家の勇臣也。澄月香車介直道是又その次の騎馬砲自得至妙名  
高なるも亦當家の英士也。種子嶋中太正吉是又その次の射術の名家昔  
後醍醐天皇の御時南殿近く飛石を。怪鳥を射て隊主と名を揚る。隱岐  
次郎左衛門尉廣有が六世孫。則當今北面の武士。秋篠將曹廣當是也。  
と一個々小汲會はれ。五個の武士ある。俱小找出親兵衛小名對面を。あけり。姑  
且く政元ハ登よ親兵衛と喚う。今我後方小侍る。暴法師ハ是東國の客僧也。  
素より當家小俗縁あり。介る小僧生れり。その膂力の剛く。又那辨慶彌  
増て重六十餘斤ある。鐵の鹿杖を自由小使本本事あり。矧又敵劍栗姚小長  
る。笠前砍の但馬和田新發智と云といへども。屑ともせざる者也。て。他を汝の敵

て。小加え。其本事と見ま。欲ま。い。傷をえり。徳用馳て。找と出。親兵衛小  
うち向いて。送小黙礼。おのの件。の武士もの上。必。當下政元又い。親兵衛並敵  
て。小立。兵毎も皆。听ね。試。敵。木刀。鎧。尖頭。と。拔去れども。或。痛。窮  
所を。敵。命。項。も。ある。死。後。是。も。亦。知。る。べ。然。る。不。覚。あり。ても。只。是。自。業  
自得。送。送。恨。る。と。云。誓。言。書。と。ま。あ。り。但。一。真。劍。を。も。て。せ。と。請。示。さ。も  
これ。あ。り。又。時。宜。依。ん。と。輒。許。し。か。け。れ。も。神。文。の。載。り。皆。の。旨。と。ゆ。よ  
か。と。宣。示。し。詞。と。共。有。司。件。の。誓。言。文。を。も。て。出。聲。爽。や。く。讀。聽。せ。親。兵。衛。並。小  
敵。の。武。士。們。と。徳。用。も。言。兼。し。各。の。名。字。の。下。小。花。押。を。書。寫。し。指。と。破。り。血。を  
賤。し。有。司。則。令。揚。る。と。儘。主。君。小。呈。圖。也。政。元。情。を。見。て。有。徳。れ。且。別。席。小  
退。り。各。各。准。備。を。せ。亭。午。の。時。候。より。我。も。亦。出。勝。負。と。實。檢。せ。し。麼。親。兵。衛  
能。做。ま。と。回。り。親。兵。衛。然。し。弱。冠。未。熟。の。身。あり。と。救。心。小。見。出。し。預。り。ま。り。て

免る路あり。左ても右ても勇士達及ぶべくいひも然りと武士たる者が敵を怕れて  
 今更云と辨い京さい即坐頭髪と前刀棄て高野入るより外術を只あ笑ひの  
 備人のと答る徳用を尻目ふける真勇の魂と氣色不見れと改元然と苦笑と  
 卒然準備といを後又後小身を起し奥入ると徳用一雲時目送  
 して敵齋齋の向ひていさう酒家法師不相応から武勇の空えあると各位加  
 えられと痛痛く思われんあれども三四百年來叡山の衆徒奈良法師の武勇れ答  
 ありも勘らむ猫兒も釋氏も推並く皆是國家の民なれば義不仗て彌陀の利劍放  
 振るるといふも非如真劍をむとも我一棒を喫ん者孰も往生せざるべ然死ても怨  
 るはよしと神文不載ぬ館の賢慮脱落る。実小敬服々々と誇る復六推林示めて  
 要る宏言せむも在れ卒大江生諸勇士達且別席不退して儲の饌を賜りて準備と  
 してといを青侍們あろはる。親兵衛と徳用を分りて兩室不案内の日の餘敵

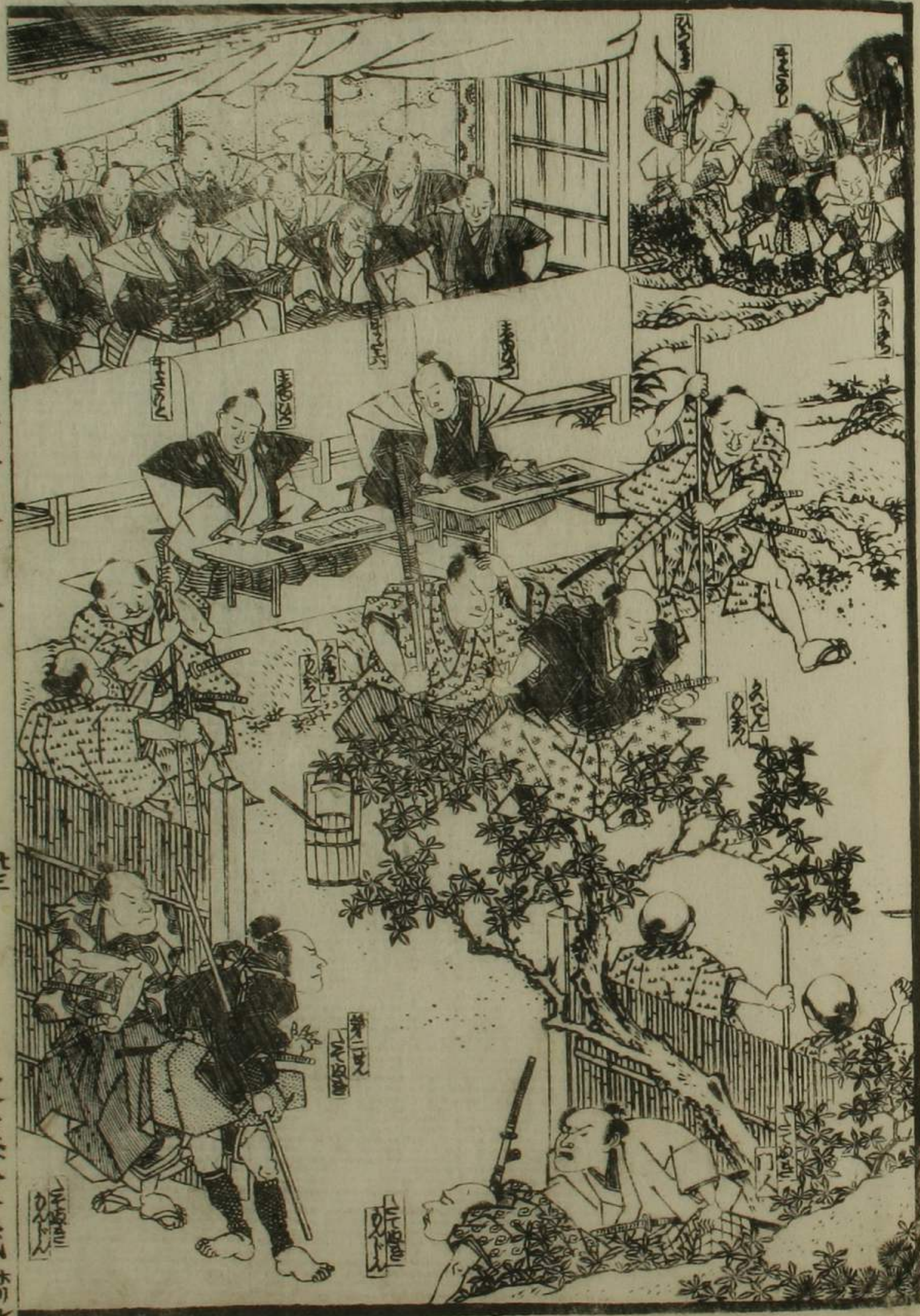
ての武士一席中。比皆共侶不案内に就てその席を赴けける。介向不時移りて响く  
 正午の土ま共試敷と促む大鼓音鼓々々と響えけり登時大江親兵衛身甲小  
 脇甲脛盾も袴を高く結む伏姫神授の短刀を腰不帯び小月形の名刀を右ふ  
 引提り青侍們不案内をせられ徐の庭より外に出る。儲の場不赴く程那五個の敵  
 の武士を敵齋齋經緯鞍馬海傳真賢澄月香車介直道種子嶋中太正生。秋  
 篠將曹廣當各一二の弟子木刀槍棒弓箭鳥銃銃丸燄硝を持せり出る  
 試敷の場不敷へ開中徳用の南蛮鍔の鏢衫の上白綾の小袖と被下鳥紋  
 紗の腰衣を高く裹けて緋紬の結び紬ね聖柄の戒刀と腰不跨り銀の鉄打る細  
 鏢の針十玉頭の経線不身を固め鼠色光絹の千葉巾金の左纏の懸纏ある  
 眼宵不戴靴漆の細紗の二幅糾合する袴を掛する。那新制衣の鐵の鹿杖杖六  
 十斤る。腋挟み足白菅の戦鞋の重底る。穿做て隨從の徒弟陸釋坊堅削の

登見と執と乃の驚張おどろ出いる面魂おもてたま苛こりく一人ひとり當千あたせんの威風いふうありまの他ほか五個ごごの武士ぶし毎  
 も或あるハ鏢かぶと衫しん或あるハ身甲みんか衣いの下したハ透すゑ間まもるく武具ぶぐせざる者ものもるく小袖こそで袴はかまハ綺羅きらを  
 盡つくして緋ひ紉ぬいの袴はかま一様ひとしやうホの日ひ晴はと打粉うちこなつめりう徳用とくようガ華はな前まへハ四下よつしや下した拂はらふ勢いきほ  
 及およぶべくも不ふえさるけり然しかハ六の処ところハ素是すぜ走馬そうま場頭ばうとうホして五十間いそまハ八間はつまの平坦へいたんハ左右さうぶ  
 結縛むす草生くさせいの小塘こたう堤つゝあり开ひらを二千間にせんまハ五間ごまの際さかい袖そで掲か可かの四目よめ離はな色いろと締ひ込こめ  
 四方よつしやハ折戸せつこの小門こもんあり則すなはち這里こゝと試敷しぢきの場ばとて南みなみの塘たう堤つゝハ高たかく假殿かりだんの構かま  
 えるその作りつくりハ勾欄こうらんハ似にて檐えん下したハ紫むらさの天幕てんまくと張耳ちやうじ後方ごほうハ五六ご雙ふたの金屏きんびやう  
 建た統と統とらて脇わき楸くの欄干らんかんハ猩々せうじやう緋ひの檀たん幾いくともる楸くハ四下よつしやハ赫こ亦また火か可か也や吉野よしの龍りゆう  
 田の春花はるはな秋葉あきばを一度いちどハ長なが観かんる心地こころをり這假こゝろ殿だんの堤塘つゝの下したハ緑道りよくだう席せき  
 布ぬい多おほく執筆しつぴつの有司うし二三にさん名な小机こまる硯いんの墨すみと磨すりるごとく合あの次第しだい簿ぼを所しよ  
 見て將まさハ雌雄しゆうじゆうと録ろくさんとと又また北きたの堤塘つゝの這方こゝろ四目よめ離はな色いろの内うちハ羅紗らさの打うち列りやく外がい会かい

純子じゆんこの野袴のの穿きて較柄けあひらの両刀りやうたうと帯おびハ兩個ふたごの実檢じつけん使し登見と尻しりと楯たてて在ありまの餘あま  
 介添けいぞんの武士ぶし五武師ごぶしの門人かど職役しやくやくある者もの甚おほく敬言けいげん固この走卒そうそ一百名ひやくなハ小桿こかん棒ぼうを御ご  
 立たて増まの四方よつしやと守まもり又また鞞かぶと措おる色いろ々々の馬うま數十頭かすじう各おの鑣ばう奴やつ等ら牽ひりて来てきて  
 亦また堤塘つゝの下したハ在あり今日けふの儲もろハあべハれどもその數殊かずとハ異なることハ武備ぶひを示しさる為ためハ勝かち  
 者ものハ牽ひ出物ひだりものの准備じゆんびをんと人ひと愈思よおへ却かへ試敷しぢきの時とき臨りんく大鼓おほづと鳴なりてこれを促うなが  
 去い鈕にうをのり退ひく暗くら晝ひるとき有司うしハ是こゝろの幾箇いくか條じょうと死ししても死し心こころをりといハ拉言らげん書しよの神かみ  
 文ぶんを親おん兵衛べゑと敵たかの武士ぶしと徳用とくようハ復讀ふくどく示しして政元せいげんの命いのちを修しゆる有あり程ほどハ政元せいげん  
 華美けいび多おほく衣紋いもん袴はかまハ小刀こたうと帯おびハ大刀おほハ胡意こい近習きんじゆハ執しらして既すでハ假殿かりだんの  
 中英ちゆうゑいハありまの目め扨た後ごの老黨らうたう若黨じやくたうハ西復せいふく六むを首くびあり有司うしハ近臣きんしん二三にさん名な都みやこで公こう  
 服ふくの肩かたと比ひ袖そでを列りやくねて齊せい肩かたと左右さうぶ二側にがわハ侍しやうりて姑なご且かつ又また試敷しぢきを促うながま大鼓おほづ撥は  
 早はやめて打鳴うちなせ東あづまの方かたハ小門こもんあり試敷しぢきの格かく絶た入いる者ものハ是則こゝろ別人べつじんるを大江おほ親兵衛しんべゑ

仁る袴の袴と結を。身装上ノ寫志一と。先政元の假殿向ひて跪居く  
 低頭揖讓の礼正う。阿容さる色る。更又西向ひて。徐敵も。程の介  
 添の武士長ずる。棒木刀と携て。親兵衛の後あり。豫より第一番の白打槍棒  
 と定められ。海傳真賢へ。惴雄の猛者なれば。林へ。絶内。杖入り。兩個の  
 実檢使。向ひ。大刀は足戰場。第一の器械。即これを短兵とい。白  
 打の近來の武藝。或は巷路軍組。鼓を必要ある。在下御免。蒙り。第一番  
 杖。と詞。演。答。親兵衛の身。邊。相。五八尺の  
 程。跪居。送。黙。海傳が介添。則。允可の弟子。後。後方。在  
 携。赤。木刀の長二尺許。對。回。程。親兵衛の介添。亦。携  
 る。木刀。親兵衛。推。否。晚。生。熟。這。鑢。扇。あ。わ。り。と。い。ふ  
 海傳。原。來。酒。家。と。敵。も。足。ら。ず。と。和。主。の。思。以。悔。る。然。る。も。酷。く。輸。る

折器械短故。分説種。為。於。鳥。侍。技。を。せ。木。刀。と。合。り。ね。と。詰。れ。親  
 兵衛。完。介。と。笑。く。否。と。閉。戦。の。利。の。器械。の。長。短。の。あ。ら。わ。る。も。或。は。敵。の。言。言。不  
 縁。その。場。の。廣。陝。の。操。り。て。甲。も。し。も。俱。不。要。あ。ら。長。の。鼓。も。利。あ。れ。と。刺。さ。る。小。不  
 便。之。豈。徒。長。を。利。と。の。せ。ん。や。と。い。つ。腰。の。鑢。扇。を。抜。出。し。右。も。不。合。て。這。鑢。扇。に。我  
 為。不。活。人。殺。人。二。劍。不。勝。さ。う。要。る。は。膽。と。前。火。より。卒。々。本。事。と。試。め。と。窘。ら。れ  
 海傳。の。性。起。り。満。面。火。の。と。憎。小。猴。子。が。似。而。非。廣。言。思。以。知。せ。覺。期。と。せ。と  
 罵。る。武。者。聲。聲。苛。め。木。刀。と。集。く。檢。合。て。衝。と。身。と。起。耶。と。聲。を。け。眉。間。を  
 打。ぐ。丁。と。敷。さ。り。親。兵。衛。の。り。と。身。を。反。し。て。鑢。扇。を。の。り。下。地。と。受。流。一。打  
 拂。ふ。修。煉。精。妙。神。出。息。没。電。光。石。火。の。眼。不。見。光。め。又。只。陽。焰。飛。會。の。形。と。影。不  
 足。如。く。も。小。も。合。え。ぬ。鼓。も。不。敷。ぬ。海。傳。秘。術。を。書。母。も。只。是。數。千。の。鑢。扇。と  
 り。柵。掛。て。八。葉。二。十。葉。不。那。身。と。圍。ふ。異。る。を。然。り。這。鞍。馬。海。傳。真。賢。の。手。齡



八代傳九郎卷二五

九三

大徳寺三郎

ホリシ



第一巻  
親兵衛  
海傳  
徳

八代傳九郎卷二五

大徳寺三郎

ホリシ



四十許身材五尺八九寸。烏髮赤く。眉毛赤く。色浅黒く。皆列衣け。聲の銅鑼を  
 鳴まふ似ら。鞍馬八流敷。劍の妙奥を。得て京師に名あり。その教を受る者。千とて  
 數ふべし。あつて天下の敵多し。と思ひ誇れる。自負大言と。己心憚ら。況今親兵衛が  
 少年より。優情多し。敵も不足ら。と侮り。敢て合の次序を守ら。真先小枝  
 出て。只一敷の小枝。と思ひ。似せ。扱れ。受刃の。その。猶精神を。勵し。嘯ま  
 叫ぶ。戦ひけり。間話休題。介程大江親兵衛。海傳が。度より。鬼を。修煉の木刀。と物  
 と。も。一尺。手の。鑊扇。とて。幾番。と。く。左。右。接。て。其。疲。勞。と。程。海傳。竟  
 神衰へ。刀筋。乱れて。酔る。像。と。踏。と。く。走。鬼。と。親兵衛。を。引。外。と。鑊扇。と。て  
 海傳の。右の。拳。を。殿。と。撞。つ。撲。れて。骨。や。摧。け。久。憶。と。木。刀。と。裏。唾。と。損。と。怯。む。を。透  
 さ。ぎ。丁。と。蹴。る。至。妙。の。白。打。の。海傳。の。筋。手。も。仰。さ。る。地。响。高。く。平。張。小。枝。と。一。霎。時。の  
 起。も。は。ら。う。と。介。添。の。弟子。も。驚。駭。に。懸。被。起。し。く。肩。小。枝。と。退。け。の。登。時。親。兵。衛。介

添。一。個。の。武。士。准。備。の。水。と。沙。碗。を。汲。く。これ。を。廣。め。と。ま。る。親。兵。衛。を。水。を。の。く  
 練。口。を。漱。ぐ。の。自。若。と。く。又。敵。も。程。も。う。ち。鳴。ま。大。鼓。と。共。に。離。色。の。西。の。小。門  
 より。徐。々。と。入。り。來。る。武。士。是。則。別。人。と。も。槍。棒。白。打。の。名。も。え。敵。齋。齋。經。緯  
 る。あ。も。亦。年。歳。の。四。十。過。半。臂。縛。身。甲。小。身。を。固。め。袴。の。引。折。精。悍。と。介。添。の  
 弟子。と。二。人。後。方。に。後。へ。る。事。の。形。勢。海。傳。に。越。れ。れ。ど。恨。る。色。も。先。実。檢。使。不  
 黙。礼。と。躬。親。兵。衛。立。向。ひ。て。跪。居。て。莞。然。と。う。ち。笑。く。適。に。大江。生。目。今。の。御。本  
 事。敵。も。足。る。べ。し。我。も。な。ら。ん。擇。小。因。と。辯。ふ。由。一。棒。試。め。り。と。介。を。親。兵。衛。と。ち  
 听。て。現。是。棒。の。長。兵。も。鏡。扇。の。相。応。か。ら。晚。生。も。棒。と。り。御。敵。も。立。ん。と。介。  
 答。え。左。右。の。介。添。も。素。樫。の。棒。の。六。尺。も。兩。個。の。備。小。差。半。也。送。り。合。て。身。を。起。さ  
 び。て。敵。齋。齋。經。緯。の。を。儘。此。下。退。て。件。の。棒。を。隠。さ。る。又。敏。系。扱。て。合。車。と。輪。を  
 と。う。ち。振。ら。し。但。風。車。の。輪。も。如。く。現。經。緯。も。分。ら。な。ま。ふ。と。介。の。う。ち。見。え。さ。け。け。

既すなはち敵齋の更も又も棒を合ひ直すと。然らんが參らふ大江生とのいつら佐と找向ひて身を構はくは左を右をくく敷きをも猛可に悩む面と頻卑ゆて嗚呼とをろふ又聲をかけて怒りを受ふ大江殿と禁めて些し退はりて咱們近曾折し觸てら轉筋筋痠痠辟足持病あり目今も亦を病之痲狂可不發りく筋動はる脚癱れて堪らずかり選憾く思へも將息を異日のあらま實檢使達のあもと宜く仰上られ痛一疼一とをろふ棒を鼻哩と投棄て脚を曳り退け介添の弟子們の呆れて目と目を注すのと只得棒を拾抗て俱後後を從ひけ是より騎馬の争ひれば實檢使の親兵衛を勞ひ推退かし共に能りて王君政元の親兵衛海傳が勝負分明の事及至敵齋の急病起ぬとの言は趣を詳しく上れ經緯が弟子と貝員の母と除くの外目を注し袂を披て敵齋が校點さる海傳の見懲して術を免れん為す然る急病の發らけ許して又推出る下高捷して懲さると其指さして請り笑ふも言らけ是より鎧騎馬ありく

雌雄と決ますと不豫の定りけれる鎧尖を抜去りて代る白粉と言ふ裏を素須比裏の形毬のどくをとりてせれ人の鳥草絨の身甲涅小袖黑羅紗の戰袍を被るく馬も驪を用ふと既不の准備あり則親兵衛と香車介の件を賜ひけり當下澄月香車介直道の實檢使不就て陳さる在下既小大江親兵衛が本事を了て知す他の少年と云ふといふも實不一人當千之遠莫倘戰場を衆敵と相挑ます首級を喪ふとある借れ今在下小相士二人を借しぬらば必や克ひけり口單身を十二分の譽を取り加すと流りけり政元をうちて原來直道へ後れる一個の幫助といふと鎧術不煅煉して今親兵衛の敵を不足る者他が外の者を擇ますと人を争ひ何いせんと不詞の言はれ政元の後侍る近習の中小壯士あり忽地聲を聞きて我君をどこへ入ると英氣を敗れぬと呼り突然と找出主の朝ひて恭く額を衝く政元敬馬をらず熟視る亦近習の一人を紀内鬼平五景紀と喚做す者を





第<sup>ご</sup>三<sup>えん</sup>親<sup>お</sup>兵<sup>へ</sup>衛<sup>ゑ</sup>戦<sup>せん</sup>  
 直<sup>ち</sup>道<sup>どう</sup>景<sup>けい</sup>  
 紀<sup>き</sup>を<sup>を</sup>懲<sup>ちやう</sup>む<sup>む</sup>

八代傳九郎卷二下

共

○大坂上之陣



八代傳九郎卷二下

○大坂上之陣

出り香車介の身邊に赴き、倭々と告ぐ身装と整え、姑且して第三戦の鬼大鼓  
 又鼓々々と響くと暗號、東門より大江親兵衛の馬上雄々たる装ひゆく。突る槍と腋  
 狭し、徐々に入り来り、程亦西の小門より香車介の馬を找る。一樣の身装、馬を都て  
 黒らけり、倭而雙方馬をよそ。名告り、槍を拈く。一上一下と厮挑む。送の修煉の  
 秘術を盡其勝負、孰と見る程、既なく直道の堪む。下槍するより、親兵衛が  
 槍の杓、附る裏の白粉のく。突る、毎小衣裳、小塗を、隠と、さうもわられ。初黒  
 かり、戦袍衣の襟さ、胸盾さ、白點駁斑ふる。けり。浩処、紀内鬼平五景、紀身  
 甲衣裳、精悍く、馬小拍れ、西門より、甘奪地、小走り、来り、衝と、馳抜て、親兵衛の  
 後方と、距る程、十間許、馬の鼻、つら、無旋りて、研を飛しく、親兵衛を、打隊、ま、さ、を  
 構へる。畢竟、景紀、投石、もて、親兵衛を、打隊、ま、否や、开へ、又、下の、回、解、分、を、聴、ね、が。

南總里見八代傳第九輯卷之二十五終

